

現在、好生館では、研究のために当館で保管する検体・診療情報等を他の研究機関に対して提供しています。この研究は倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、実施しています。

<p><b>【研究課題名】</b> 急性下部消化管出血患者のクリニカルアウトカムの実態とその関連因子の解明：多施設共同後ろ向き研究</p>
<p><b>【共同研究の代表研究機関及び研究代表者】</b> 代表研究機関・所属・研究代表者：東京医科大学病院 内視鏡センター 永田尚義</p>
<p><b>【利用・提供の対象となる方】</b> 2010年1月1日から2023年8月31日までに血便症状で受診した患者の診療録で後ろ向き調査をおこなう。</p>
<p><b>【提供をしている検体・診療情報等の項目】</b> 施設情報、患者背景情報、入院時現症、検査値、既往歴、併存疾患（現状と既往含む）、受診時薬剤（内服、注射、座薬含む）、抗血栓薬の休薬と再開、抗凝固薬の拮抗薬の有無、CT検査情報（時期、所見、画像）、前処置、内視鏡機器、内視鏡検査情報（時期、所見、画像）、輸血治療、内視鏡治療内容、放射線治療内容、外科治療内容、治療に伴う偶発症（穿孔、敗血症）、短期アウトカム（受診後30日以内）、長期アウトカム（受診後1年、3年）</p>
<p><b>【利用の目的】</b></p> <p>1.主要目的 急性下部消化管出血患者のクリニカルアウトカム（以下、アウトカム）の頻度、及びそれに関連する因子を明らかにすること</p> <p>2.副次目的 アウトカムに関連する因子を以下の観点から明らかにすること</p> <p>1.初期診療における臨床因子がアウトカムに与える影響（アウトカム予測モデルの作成） 2.出血リスク薬剤のマネージメントによるアウトカムへの影響。具体的には、Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs (NSAIDs) 及び抗血栓薬の中止・継続の影響 3.診断における臨床因子がアウトカムに与える影響 4.治療における臨床因子がアウトカムに与える影響 5.初期診療、診断、治療における臨床因子が外来 follow 中に発症する長期アウトカムに与える影響</p>
<p><b>【研究について】</b> 遺伝子解析研究 （無） 営利企業との共同 （無）</p>
<p><b>【提供している研究機関及び研究責任者】</b> 東京医科大学病院 内視鏡センター 永田尚義</p>
<p><b>【利用期間】</b> 倫理審査承認日から2029年12月31日まで</p>
<p><b>【佐賀県医療センター好生館 研究責任者及び問い合わせ担当者】</b> 研究責任者：佐賀県医療センター好生館 消化器内科 医長 富永直之 問い合わせ担当者：佐賀県医療センター好生館 消化器内科 医長 富永直之</p>

アウト用情報公開文書（提供している場合）

対応可能時間：平日9時～16時

電話：0952-24-2171（代表）

Eメール：[rinsho@koseikan.jp](mailto:rinsho@koseikan.jp)（臨床試験推進部）

研究の詳細についてお知りになりたい、またはこの研究に対して利用・提供してほしくないと思われた際には、好生館の問い合わせ担当者までご連絡ください。